



未来を切り拓く

2024年11月25日(月)発行

文責：石田 浩一

〈2024年度 学校教育目標〉

「夢を育む学校創り」

～人権尊重の精神のもと、

自ら学び、心豊かでたくましく生きる

実践力のある生徒の育成～

立冬を迎え、冬支度の声が聞こえる頃となりました。行事が多い2学期もあと1か月で終業式を迎えようとしています。また、本日から期末テストをおこなっています。テスト期間に準備した成果を十分に発揮してくれることを願っています。

§ I 拉致問題を考える国民の集い in 島根

11月10日(日)に益田市の島根県芸術文化センターグラントワで開催されました。この会は、毎年各県で開催されており、島根県では初めておこなわれました。当日は、拉致被害者等のご家族の訴えや北朝鮮による拉致被害者家族連絡会代表 横田拓也 氏の講演がありました。また、本校の寺井蔵人さん(3年)が中学生による意見発表として、県内の中学生を代表して、これまでの学習をとおして学んだことや自身の考えを堂々と発表しました。以下に、意見発表の内容を掲載します。



「私たちに何ができるか」

江津市立青陵中学校 三年 寺井 蔵人

私は、中学校二年生で行われた拉致問題の学習をするまで「拉致問題」という言葉を知りませんでした。しかし、拉致問題の学習の中でアニメ「めぐみ」を視聴し、私と同じ中学生の横田めぐみさんが北朝鮮によって拉致されたという事実には衝撃を受けました。また、自分自身や自分の家族、友達がある日、突然拉致される。いつもと同じように過ごしていた日々がある日突然奪われてしまうことに恐怖を感じました。今、こうして毎日、ご飯を食べたり、安全に生活を送ることができたりすることは決して当たり前のことではなく、本当に幸せなことなのだと拉致問題の学習を通して実感させられました。

また、北朝鮮は、日本人の拉致を認めているのにも関わらず、日本が納得できないような報告をしたり、拉致被害者全員を帰国させなかったりしたことは本当に許せないことだと思います。しかし、横田めぐみさんの母親である早紀江さんは、「私たちは北朝鮮に住む一般市民の人を憎んだり、恨んだりしている訳ではありません。ただ、親として今も北朝鮮に囚われの身となっている娘を助け出したいだけなのです。」とおっしゃっていました。横田めぐみさんのご両親は、私たちには計り知れないほどの悲しみや苦しみ、怒りを感じられてきたと思います。それにも関わらず、おっしゃったこの言葉は、私の胸に衝撃となって深く突き刺さりました。

拉致問題が解決に向かうためには、多くの人がこの問題を知り、考えていく必要があります。拉致問題の解決を前進させ、風化させないためには、まず私たち若い世代が拉致問題について知り、考えていかなければならないと思います。その上で大切なことは、拉致問題に対して正しい知識を身につけることはもちろんですが、新たな差別や偏見を生まないことも大切だと思います。

この拉致問題は日本の主権や人権を侵害する行為であり、決して許してはいけない行為です。しかし、それによって北朝鮮という存在を一括りにして、北朝鮮に住む一般の人々を恨み、差別するということはあってはならないと早紀江さんの言葉から気付きました。

私が通っている江津市立青陵中学校は昨年に行われた「拉致問題に関する中学生サミット」に島根県代表として参加しました。

私は、この話を先生から聞いたとき、私の先輩が島根県の代表として全国で初めて行われた拉致問題サミットに参加したことは、とてもすばらしいことで誇らしいことだと思いました。私も先輩のように行動できる人になりたいと思いました。また、拉致被害者や特定失踪者のご家族から拉致問題についてのお話を聴くことで、より拉致問題への考えを深めることができるのではないかと思います。

本日、島根県で開催されている「拉致問題を考える国民の集い」への参加を決意したのも自ら行動できる人になりたい、拉致問題に対する考えを深めたいという二つの理由からでした。

私は、私たち中学生が直接、拉致問題を解決することは難しいことだと思います。しかし、私がそうであったように私たち若い世代が学校の授業等を通して拉致問題について正しく知り、解決に向けて自分たちに何ができるのかを考え、行動することが拉致問題の解決を前進させるための大切な一歩になると考えます。そうすれば、こうした講演会に興味をもったり、拉致問題に関するニュースの内容を理解し、自分の考えをさらに深めたりすることにつながると思います。

そして何より大事なのは、拉致被害者やそのご家族のことを他人事として捉えるのではなく、もし、自分や家族にこのようなことが起こったら…と自分の事として捉え、被害者やそのご家族の方のお気持ちを理解し、自分の事として考えることだと思います。

この拉致問題は、拉致被害者の方もそうですが、そのご家族も高齢化が進んでおり、時間が限られている現在進行形の大きな問題です。この問題が一日も早く解決し、全ての拉致被害者の方が帰国することを願っています。そのためにも私はこれからも学び続け、今後、日本を担う世代として私たちにできることを探し続け、行動していきたいです。

§ 2 学校かくれんぼ ～PTA家庭教育部の主催による～

11月17日（日）の午前中に、本校を会場にして初開催されました。これは、PTA家庭教育部の発案によって、生徒からの意見を参考にしながら、実行委員会に生徒も加わっての実施となりました。準備段階では、数回にわたる実行委員会が開かれ、“安全で、皆が楽しめる内容”になるよう、様々な意見が交わされました。当日は、約80名の生徒や多くの保護者の方が参加し、初の試みの“学校かくれんぼ”を楽しむことができました。

また、会の終わりには、地域の方のお力添えにより、「具だくさんの豚汁」と「焼き芋」が振舞われました。参加した皆さんは、温かい料理を食べながら、笑顔で楽しいひとときを過ごすことができました。この機会にご協力をいただいたすべての皆様に、心よりお礼申しあげます。



§ 3 江津市の未来を語る会 ～市議会議員の方をお迎えして～

11月20日（水）に江津市議会議員の方（14名）をお迎えして、「江津市の未来を語る会」をおこないました。この取組は、3年生の社会科（公民）で学ぶ“現代の民主政治”に関連させた学習として、昨年に引き続いて実施しました。



始まってしばらくは緊張していた生徒たちも、議員の方の温かい声かけによって次第に意見を述べたり、質問したりするようになりました。特に、中心テーマである「江津市の好きのところ（よいところを含む）や市政に希望すること（困っていることを含む）は、どんなことですか？」では、一人ひとりが熱心かつ真剣に江津市の未来を考えながらディスカッションする様子が大変印象的でした。

今後も変化の激しい情報社会の中で、正解を探すのではなく、対話を重ねながら解を創り出していくことの大切さを学んだ時間となりました。

以下は、参加した生徒の感想の一部です。

江津市のこれからを議員の方と深く考え、真剣に話し合うことができたことは、とても貴重な体験でした。

市議会議員の方は、市民の生活が豊かになるよう、様々な対策をしておられることが分かり、身近に感じられた。

江津市のことを考えると、いつも不満なことが先に思いつくけど、良いところがたくさんあると実感することができた。

§ 4 全国学力・学習状況調査の概要と今後の取組等

毎年、年度初めに実施している全国学力・学習状況調査（3年生対象）の結果が、先般公表されました。この調査は、全国的な学力や学習状況を把握し、指導の充実や改善に役立てるものです。教科担当者による分析内容を全職員で共有し、今後の授業改善に生かしていくことを確認しました。以下、本校の調査結果等についてお知らせいたします。

【学力調査の結果の概要】

教科 項目	国語	数学
平均正答率	全国・県平均よりも下回る。	全国・県平均よりも下回る。
強み	昨年に続いて、「我が国の言語文化に関する事項」については、全国平均とほぼ同じであった。	基礎的な問題や知識・技能は、他と比較して平均正答率が高い内容がある。
弱み	「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国・県平均を大きく下回った。	説明する問題や証明問題では、回答率も低く、粘り強く取り組む生徒が少ない。

【質問紙の回答状況と本校の研究の重点等の関連から】

〈その教科の学習内容に対する理解〉

（数値の単位は％）

質問項目	本校	県	全国
国語の授業の内容はよく分かりますか。	74.6	63.2	64.3
数学の授業の内容はよく分かりますか。	55.6	55.8	57.2

〈学校研究の中心的な取組である“話し合い活動”との関連から〉

(数値の単位は%)

質問項目	本校	県	全国
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	82.5	86.9	86.1
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	84.1	93.3	92.3
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。	87.3	81.8	80.6
学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	82.5	85.9	86.3
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	90.5	93.0	91.7
国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの意見を結び付けて考えをまとめていますか。	79.4	80.9	80.5

〈家庭での過ごし方〉

(数値の単位は%)

質問項目	本校	県	全国
朝食を毎日食べていますか。	100.0	95.0	91.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	79.3	82.2	80.7
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	88.9	93.9	92.5
学校の授業時間以外に、平日1日当たりどれくらいの時間、ICT機器を勉強のために使っていますか。(1時間以上の割合)	61.9	51.0	64.3
平日1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(PCゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム)をしますか。(2時間以上の割合)	57.1	43.3	48.9
平日1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。(2時間以上の割合)	58.7	50.4	55.9
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。(守っている、だいたい守っているの割合)	76.2	68.8	72.2
学校の授業時間以外に、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)しますか。(1時間以上の割合)	61.9	51.0	64.3
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)しますか。(1時間以上の割合)	74.6	65.7	63.0
新聞を読んでいますか。(月に3回以上の割合)	15.8	22.0	17.0
あなたの家には、およそどれくらいの本(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)がありますか。(26冊以上の割合)	79.3	75.1	71.0

【今後の取組(一部)とお願い】

- 国語科では、文章の要旨を把握し、理解する力を育む学習に力を入れます。また、説明や表現する過程において、個人で考える場面や集団で考える場面を取り入れるなど、生徒の考えをつなげる問いかけなどをとおして、思考力・判断力・表現力を育みます。
 - 数学科では、数学的活動をとおして生徒同士で説明し合ったり、補足したりするなど、根拠を明らかにしながら理解を深める授業づくりを行います。
 - これまでと同様に、ICTを活用した授業を推し進め、授業担当者間の学びを促進します。
 - 家庭学習の時間がさらに充実するよう、自ら学習する意欲を喚起する方策(自主学習ノートやタブレットを活用した取組)を進めていきます。
- ☆家庭での過ごし方について、ご家庭でも話題にさせていただき、家庭学習がより充実するよう、お力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。